

千年の森便り No.135

2014.10.30

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.digi2.jp/>

事務局長 伊藤道男

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

10月11日(土) 晴 臨時活動 植物とキノコ調査 10月4日に続きクロヤツシロランの花探しとキノコ調査。高橋洋子、降幡、真鍋、千葉菌の伊豆夫妻、市原植物研の今井さんに参加いただきました。

○クロヤツシロランの花探し 昨年の自生地とホテイ岬を這いまわり、落葉をかき分け丁寧に探しました。落葉の上には5割ほどに伸びた果実株が数株見つかり、落葉の下にも花を終え果実になった株、なかにはモヤシ状の株も見つかりましたが、残念ながら、この日も花を見つけることは出来ませんでした。地上に出ている株の状況から、1週間には開花していたものと思われます。(真鍋)

○キノコ調査 10月4日の観察ではコウタケなどの秋のキノコが出始めていましたので、台風18号の雨後のキノコに期待していましたが、思っていた様子と全く違い、キノコの発生は極めて乏しいものでした。今後、キノコの発生がどのように変化していくか、観察するのが楽しみです。観察したキノコは28種です。(降幡)

10月19日(日) 晴 臨時活動 森の整備 先の台風によって千年の森の遊歩道を塞いでいた倒木、かかり枝の整理を行いました。作業は10時から13時まで、久我夫妻、大原さん、根本の4人で行いました。

ホテイ岬、禁断の岬を除いて、吊り橋のロープに架かった枝や、植生保護柵脇の遊歩道を塞いでいた倒木を始め10数箇所の整理を行い一般遊歩道の作業を終えました。森の中のかかり枝で、手の届くところは除去しましたが、まだ残っている箇所がありますので、きのご観察会など今後の活動時ご注意ください。(根本)

10月26日(日) 晴 秋のキノコ観察会

参加会員は新井孝男、新井通子、伊藤、鶴沢、大原、久我夫妻、坂本、田島、中田夫妻と子供達5人、根本、福島、真鍋、村野、山口、山本、加えて君津市市民活動体験参加の藤川、有江夫妻、河野さん、君津の山田夫妻、藤原さん、木更津の小倉夫妻、東京から遠路参加の塚本、福田、吉澤さん、千葉の森さん、千葉菌の伊豆夫妻、内藤、片山さん親子、吹春講師を含め総勢42名の大盛況でした。恒例のラジオ体操に続き、キノコ観察吹春コース、健脚コースなど



に分かれて観察・採集、広場に集まったキノコを仕分け・同定、昼食後、吹春講師に解説いただきました。参加者はキノコ通から初心者まで多彩な顔ぶれでしたが、講師の分かりやすい、興味深いお話を熱心に聴き、講師の「何かご意見は？」に応じて意見や質疑も盛り上がりました。雨予報が外れ、秋晴れの幸運にも恵まれ、キノコや森の自然を楽しむことが出来ました。(真鍋)

○キノコ観察-吹春コース

吹春先生ときのご観察するグループは「千年広場」からホテイ岬方面を探しました。参加者の中できのご観察会に初めて参加したという人が数名おられ、先生は初心者にもわかりやすく、説明して下さいました。最初は団子のように先生の周りに張り付いていた人達も、次第に目が慣れてくると周りに発生しているきのこに気付き、一人で周りを探すようになり、紙袋に丁寧に入れていました。「いろいろなきのこを見つけることができ楽しいですね」との声を聞きました。(村野)



次々に集まるキノコに視線が集まる

○キノコ観察-健脚コース 君津市の山田さんご夫妻、藤原さんと一緒に島の入り江から禁断の岬周辺を回りました。きのこは少ないと聞いていましたが、ゆっくり歩きながら丹念に探すと、量は少ないものの結構いろいろなきのこに出会うことができました。枯れ木につくものでは、ウスヒラタケ、アラゲキクラゲ、地面から出ているものではカノシタが今回のヒットでした。帰りにバカマツタケのシロを確認してきましたが、発生の気配は全くありませんでした。今シーズン最後のきのこ観察会、お天気に恵まれ、のんびり楽しむことができました。(福島)



健脚組はアラゲキクラゲ採り

○吹春講師のキノコ解説 「顕微鏡を使わない、やわらかいキノコの見分け方で説明します。大きな図鑑は、胞子の白いものから、色の付いているものに向かって並んでいます。並び方はどこにも書いていないことですが、胞子の色での見分け方は19世紀から大切であると言われており、現在、DNA鑑定の結果でも合致することが分かっています。」と始まり、胞子の色の順にベニタケの仲間から順次解説頂いた内容を4-6頁に記載します。(降幡)



匂いや味も確かめ、食べ方の話も



チシオタケ 10/26 坂本



ホウキタケsp 10/26 中田



ヒメツチグリsp 10/26 坂本



ホコリタケsp 10/26 山本

○昆虫観察記録

ホソミイトトンボ

(千葉県最重要保護生物：A)

成虫越冬するトンボ。夏型と越冬型の2型あるとのこと。ホソミオツネトンボと似ていますが、胸の模様が違います。



ホソミイトトンボ(♂)10/26

ホソミオツネトンボ

成虫越冬するトンボ。暖かかったのでフワフワとたくさん飛んでいました。北総台地でもよく見かけるトンボで、春にはきれいなブルーに変身します。



ホソミオツネトンボ(♂)10/26

オオアイトトンボ

卵で越冬するトンボ。木に卵を産み付ける変わり者。枝に卵を産もうとしていましたが、ここに産んでもヤゴは水辺に行くことができません。



オオアイトトンボ(♀)10/26

ヒナカマキリ

(千葉県一般保護生物：D)

福島さんが小さなカマキリを見つけられました(2cm弱)。翅が退化しており飛べません。なんとカワイイ！照葉樹林の落ち葉にいるので枯葉色をしています。



ヒナカマキリ 10/26

(他に観察された昆虫)

(画像はいずれも田島)

モンキアゲハ、キタキチョウ、ナカジロアツバ、ヒメツノカメムシ、マルカメムシ、アカサシガメ、ツマグロオオヨコバイ、オオスズメバチ、キンケハラナガツチバチ、クマバチ、モリオカメコオロギ、タンザワフキバッタ、ヤマトマルクビハネカクシ、センチコガネ、オオセンチコガネ、モリチャバネゴキブリ幼虫(田島)

○植物観察記録 観察路沿いにセンブリが
清楚に咲いていました。落葉の下にはカン
アオイがひっそりと、あちこちにコウヤボ
ウキやシラヤマギクが。9月から探してい
たクロヤツシロランは既に花期を終え、果
実又は蒴果になり、倒木の下や観察路沿い
などに多数見つかりました。(真鍋)



センブリ 10/26 真鍋



コウヤボウキ 10/26 福島



クロヤツシロラン 坂本

○野鳥記録

オシドリ 6 カルガモ 3 トビ 3+声 コゲラ声 モズ声 ハシブトガラス声 ヤマガラ声 シジュウカラ声
ヒヨドリ 1+声 ウグイス声 エナガ5+声 メジロ声 キセキレイ声 以上 13種

冬鳥の渡来が始まっています。集合場所へ向かう途中で豊英トンネルの上を迂回する旧道の峠でジョウビタキを見
ました。福島さんも相前後して同じ場所で雌雄2羽を見たそうです。島内は生息環境が合わないの、これまで
で一度目撃されているだけです。今回も参考記録です。(坂本)

○ヘビ日和

今回、珍しくヘビ4種が同時に記録されました。中田智貴君が、ひとりでジ
ムグリ、ヒバカリ、ヤマカガシの3種を確認、その後、根本さんがアオダイシ
ョウを見つけ、全部で4種の確認となりました。(福島)



ヒバカリとアオダイショウと智貴君

豊英島の豊かな自然に癒されて

東京都目黒区 吉澤咲子さん

最初のつり橋からテンションは上がり、吹春先生の解説を聞きながらのきのこ探しはもちろん、豊英島の豊
かな自然とみなさまのあたたかいお心遣いに癒され、とても楽しく有意義な時間を過ごすことができました。

豊英島にたくさんの植物などがあるのも、この会のみなさまの並々ならぬ日々の努力の積み重ねなのだ、
と感じました。次回はきのこの復習をしっかりと種類と名前をしっかりと頭に叩き込みつつ、鳥の観察や禁断
の岬など、島全体を見てまわってみたいです。

本当にありがとうございました。またみなさまの素敵な笑顔にお会いできるのを楽しみにしています

キノコの奥深さに触れた秋

君津市（市民活動体験）河野真彩洋さん

集合場所へ移動中に小雨に降られて、雨の中の観察会を覚悟しておりました。しかし、現地につく頃には雨は
止んでおり、観察会の最中も雨に打たれることもなくキノコを探ることが出来て幸運でした。

多くの種類のキノコを採集したと思ったのですが、会員の方から少ない方だと教えていただき、キノコ採集の奥
深さを味わう事が出来ました。

今までは山歩きをしていますが、大きいキノコしか目に入らなかったのですが、これからはもっとキノコを見つ
けられそうで、いい経験ができました。これからも続けて観察会に参加したいと思います。

秋のキノコに思うこと

(降幡)

9月下旬-10月初旬-中旬-下旬と豊英島のキノコの発生状況を見てきましたが、豊英島の名物といわれるコ
ウタケは小さいのが1本、バカマツタケが1本、ウラベニホテイシメジが1本、サクラシメジは無し、そし
てツチアゲビの立ち枯れと、夏季から雨が降らなかったのが大きく影響して、菌糸を伸ばすことができなかつ

たのではないかと思います。今回の観察会は、キノコの発生時期から厳しいものになるのではと予想していましたが、一方で10月になり2回の台風で、恵みの雨が降りましたので、どのような発生状況になるか楽しみにしていました。主に、ホテイ岬側の土は湿っており、ホコラ山側の土はあまり湿っていませんでした。しかし、この時期にもかかわらず50種類以上のキノコが発生していたことに驚きました。

また、菌類と係わりのあるクロヤツシロランは、前回までは2株程度でしたが、今回は群生しているのを確認することができました。私は蘭に関する知識はありませんのであくまでも推測ですが、昨年に発生した場所から約20メートル位ホコラ山寄りの倒れた木の両側に群生していましたので、種を抱えた空気の流れが倒木があることで乱れ、その結果、種子が落下して、今回群生したのではないかと推測します。菌類と係わりのあるクロヤツシロランですので、今後も注目していきたいと思います。

お知らせ

○新入会員紹介 君津市の藤川英生さん、君津市市民活動体験で10月26日きのご観察会に参加され、同日入会されました。地元の会員としてご活躍が期待されます。10月末会員数は40名です。

○11月定例活動日 11月16日(日) 秋の自然観察会など 県民の森駐車場9:30集合。

○里山カレッジ(次世代リーダー養成コース)がちば里山センター主催で開催されます。今後の里山整備のキーワードである生物多様性、森林バイオマス、NPO運営などについて、講義、ワークショップ、現地研修などで学びます。詳細はちば里山センターのHPをご覧ください。」

吹春講師解説の記録(記録:降幡)

(編集者注)聞きとり記録後講師の監修を受けていません。聞き違いによる誤記ある場合はご容赦ください。

顕微鏡を使わない、やわらかいキノコの見分け方で説明します。大きな図鑑は、胞子の白いものから、色の付いているものに向かって並んで(掲載)います。並び方はどこにも書いていないことですが、胞子の色での見分け方は19世紀から大切であると言われており、現在、DNA鑑定の結果でも合致することが分かっています。

それでは、胞子の色の順に説明していきます。

☆ ベニタケの仲間

学名はルスラ、ラクタリウス(ベニタケ属・チチタケ属)です。胞子の白いグループでキノコがどの方向からも壊れやすいという特徴を持っています。キノコの菌糸は細長くそれが束になになると縦に裂けやすくなります。しかし、ベニタケの仲間は、丸い細胞が多数含まれていますので、どの方向にも壊れるということになります。ベニタケの仲間は、ブナ林でキノコを採取した場合、5割以上がベニタケの仲間で、なかなか名前が付きません。名前の付くものは、特徴のあるもので、その特徴は乳液が出るとか、模様があるかです。千葉県ではハツタケが有名ですが、乳液が青緑色に変色します。

今日、採れているものが数種類ありますが、クロハツモドキはヒダが密で、傷がつくと赤色に変色し、後に黒色になるのが特徴です。キチチタケは黄色の乳液が出ます。アカモミタケは柄にアバタ模様があり、赤い乳液が出て、その乳液は変色しません。アカモミタケはモミの外生菌根菌で、房総半島にはモミが残存していますので、モミ林を特徴づけるキノコです。そのほか、ウズハツが採れていますが、傘の表面に渦の模様があり、傷がつくと紫色に変色します。渦の模様のないものはドビチャチタケです。キカラハツタケもありますが、柄の表面にアバタ模様があり、アバタ模様が出るキノコは標高が高かったり、針葉樹林に出るキノコに見られます。

☆ ヒラタケの仲間

ヒラタケの仲間の特徴は、キノコが棚形に出たり、柄の付け根が偏っているのが特徴で、ヒラタケの仲間に

はムキタケ、ヒラタケ、ウスヒラタケがあり、東北ではツキヨタケの中毒事故が多く発生します。

今日は、ウスヒラタケが採れていますが、肉が薄く夏から秋にかけて出るキノコです。ヒラタケは、今の時期から冬にかけて出ますが、公園などのプラタナスなど出ることもありますので、丁寧に探すと身近に発生しています。ヒラタケの仲間は木材腐朽菌です。

☆ アメリカサタケの仲間

アメリカサタケの仲間の特徴は、キノコの作りが蟬細工のようなのが特徴です。今日は、アカヤマタケが採れていますが、アメリカサタケの仲間にはサクラシメジがあります。

今日はサクラシメジが採れていませんが、毎年、豊英島に発生しており、コナラ林に生えるのが特徴で、群生しています。

☆ キシメジの仲間

キシメジの仲間の特徴は、何ら特徴のないのが特徴で、トリコローマの仲間には、皆さんがご存知のマツタケがあります。そして、千葉県ではバカマツタケがあり、学名はトリコローマバカマツタケと言います。

今日は、ニオイキシメジが採れていますが、悪臭があります。ミネシメジは昔はミドリシメジと言われており、石鹸臭あるいはサポニン臭があると言われていました。

また、カクミノシメジかスミゾシメジと思われるものがありますが、顕微鏡で見るとカクミノシメジは胞子がイチジク形をしており、両種ともに黒く変色します。

ワサビタケはシイタケの楯木に出ますが、齧ってみるとワサビのように辛いのが特徴です。

モリノカレバタケ(属)、ホウライタケ(属)、クヌギタケ(属)は森の中の落葉分解菌の御三家と私だけが言っています。今日は、モリノカレバタケ(属)を採取していただいています。良い採取の仕方をしています。上部を見ると葉っぱがはっきりと分かりますが、裏を見ると葉っぱが分解されていることが分かると思います。クヌギタケの仲間ではチシオタケが採れていますが、赤い汁が出るのが特徴ですが、今日は出ないみたいです。本郷先生にクヌギタケ(属)の特徴を聞いたところ「クヌギタケのような形」と言っていました。答えになっていませんね。森の御三家は、森の中で大事な役割をしていますが、名前はなかなか付かないので、学名で覚えておく必要があります。

今日採れているツエタケ(属)は、昔はピロードツエタケと言われていましたが、顕微鏡で確認した人がいて、10種類以上あることが判明しています。図鑑でツエタケと言われているのは、実際には日本にはないのではないかとされています。ツエタケ(属)の特徴は、柄が長く伸びて、地中には木材が埋まっていると言われています。

☆ テングタケの仲間

テングタケ仲間の学名はアマニータと言われ、ツボとツバがあるのがテングタケ型、ツボがあってツバがないのがツルタケ型と言います。そして、ツルタケ型の傘には溝線があります。テングタケの仲間は全部が外生菌根菌です。

今日は、シロタマゴテングタケあるいはドクツルタケと思われるものが採れていますが、柄の表面にササクレがあればドクツルタケですが、採れているものはどうも悩ましいところです。また、コタマゴテングタケとどこが違うかと言いますと、コタマゴテングタケはツバが黄色で、アマニータ・シトリーナという学名です。シロコタマゴテングタケ、クロコタマゴテングタケ、そして、コタマゴテングタケはツバが黄色いのが特徴です。テングタケの仲間は、中毒の当初、胃腸系の中毒症状ですが、それが一旦治まりそこから本格的な中毒が始まり、肝臓や腎臓がスポンジ状になり死に至ると言われていますので、特に注意が必要です。

これで胞子の色が白いものの説明を終わります。

次に、胞子の色がピンク色で、イッポンシメジ科とウラベニガサ科についてです。

☆ イッポンシメジの仲間

今日はウラベニホテイシメジとクサウラベニタケが採れていますが、クサウラベニタケの傘にピンク色が明

るい茶色の胞子が付いているのが分かると思いますが、この種の胞子の色です。ウラベニホテイシメジは苦く、クサウラベニタケは苦くないのが特徴です。

ウラベニホテイシメジは、傘の表面が繊維状で、繊維が切れているところに指で押した班が出るのが特徴です。クサウラベニタケは最も中毒が多いキノコと思われませんが、あまり中毒になったという話は公にされていません。きっと、多くの中毒になった人がいると思いますが、恥ずかしいのかもしれませんが。

そのほか、青色系のキノコが採れていますが、自然界では青色系は珍しく、代表的なものとしてナスコンイッポンシメジというものがあり、胞子が角張っているのが特徴ですが、今日採れたものは名前が付かないものです。

☆ ハラタケの仲間

ハラタケの仲間は、胞子の色が褐色となるのが特徴です。学名はアガリクスと言われており、今日はザラエノハラタケが採れています。ザラエノハラタケは柄の表面がササクしているのが特徴です。ハラタケの仲間は成熟するとヒダが褐色になります。

いわゆるマッシュルームの仲間ですが、売っているアガリクスは「アガリクス・ブラゼイ」と言って、ブラジルで採れたアガリクスを栽培したものです。

余談ですが、キノコを学術的に分けるためには、味と香りを書くことになっており、他の生物ではあまりないことです。味はマイルドとか書くわけです。

☆ モエギタケの仲間

モエギタケ(属)の仲間にはクリタケがありますが、千葉県では採取されておらず、標高の高いところに出ると言われています。一方で、千葉県にも多数出るのがニガグリタケで味は苦く、死亡例のあるキノコとなります。

スギタケ(属)の仲間には、皆さんもご存じのナメコがあります。ナメコの胞子は明るい茶色です。ツチスギタケと言われていたキノコがありますが、現在はスギタケと言われており、図鑑上でも混乱しています。

☆ フウセンタケの仲間

フウセンタケの仲間は、若いときにヒダのふちに蜘蛛の巣状の膜(コルチナ)が付くのが特徴で、それが柄について茶色の模様となるものがあります。フウセンタケの仲間はなかなか名前が付きません。千葉県では味で区別している場合がありますが、海外のもので猛毒のものもあるので注意が必要です。

☆ イグチの仲間

スミソメヤマイグチが採れていますが、イグチの仲間は傘の裏が網目であるという特徴があります。そして、外生菌根菌です。

スミソメヤマイグチは、柄の表面が黒いササクレ状で、黒い鱗片が付くのが特徴です。イヌシデの外生菌根菌で、関西では珍しいキノコとなります。傷が付くと黒変します。そのほか、千葉ではありませんが、長野とか北海道ではハナイグチという叔父様に人気のある滑りのあるキノコがあります。

☆ キクラゲの仲間

アラゲキクラゲが採れていますが、ヒダの表面が白く、顕微鏡で見ると表面に長い毛があるのが特徴です。そのほか、ハナビラニカワタケ、シロキクラゲが採れています。また、アカキクラゲ科の仲間ニカワホウキタケが採れています。

☆ その他

ヒダナシタケの仲間 カノシタが大量に採れていますが、白いものは白カノシタですが、今日採れたものはカノシタです。傘の裏が針状になるのが特徴です。

ウスタケは、ヒダがシワシワになっているのが特徴で、モミの林に出ます。時には群生します。

コウタケの仲間だと思いますが、サルコドンという学名で、コウタケ、シシタケ、ケロウジがありますが、コウタケは根元まで溝があり、傘の表面の鱗片が大きいのが特徴ですが、今日のものは悩ましいところです。

クロラッパタケは西洋では食べているようですが、シワひだがあり、そこから孢子を出しています。

ホウキタケの仲間は、DNA 鑑定により、図鑑のものとは違うことが分かり、日本のものは 100 種類以上で、名前は付いていません。この前に清澄で発生したものを数種類 3 人の研究者に送りましたが、3 人とも名前は付けませんでした。

腹菌類は、成熟しても被膜をかぶっているもので、今日はホコリタケがありますが、私は雨粒打撃型と呼んでいます。雨粒が当たると、孢子が出ます。このほかニセショウロがありますが、ニセショウロの孢子は黒く外生菌根菌です。一方、ホコリタケはハラタケの仲間で、孢子が成熟すると茶色で、木材腐朽菌です。

子囊菌は子囊と呼ばれる袋の中に 8 個の孢子があり、チャワンタケが代表的なものです。担子菌類と子囊菌はもともと同じものでしたが、4 億年前に担子菌類と子囊菌類が分かれたと言われています。チャワンタケの仲間が土の中に潜り込んだのがトリュフで、アマタケの仲間が土の中に潜り込んだのはショウロとなります。

10月26日豊英島キノコ採取記録 (降幡記録)

ヒラタケ科 1 種 ウスヒラタケ

ヌメリガタケ科 1 種 アカヤマタケ属

キシメジ科 13 種 サクラタケ、スミゾメシメジ? チシオタケ、ツエタケ類、ニオイキシメジ、ヒョウモンクロシメジ、ホウライタケ、ミネシメジ、ワタビタケ、シイタケ(楢木)、キシメジ属、クヌギタケ属、モリノカレバタケ属

テングタケ科 3 種 カバイロツルタケ、コタマゴテングタケ、シロタマゴテングタケ?

ハラタケ科 2 種 ザラエノハラタケ、ハラタケ属

ウラベニガサ科 1 種 ウラベニガサ

モエギタケ科 1 種 ニガグリタケ

フウセンタケ科 3 種 キヒダフウセンタケ? オオワライタケ、フウセンタケ属

イッポンシメジ科 3 種 ウラベニホテイジシメ、クサウラベニタケ、イッポンシメジ属

イグチ科 1 種 スミゾメヤマイグチ

ベニタケ科 7 種 ウズハツ、キカラハツタケ? クロハツモドキ、アカモミタケ、キチチタケ、チチタケ属、ベニタケ属

アンズタケ科 1 種 クロラッパタケ

ホウキタケ科 1 種 ホウキタケ属

ラッパタケ科 1 種 ウスタケ

ハリタケ科 1 種 カノシタ

イボタケ科 2 種 Sarcodon、イボタケ属

サルノコシカケ科 3 種 カイガラタケ、ツヤウチワタケ、ヒイロタケ

タバコウロコタケ科 1 種 ネンドタケモドキ

ツチグリ科 1 種 ツチグリ

ニセショウロ科 1 種 ニセショウロ属

ヒメツチグリ科 2 種 ヒメツチグリ、エリマキツチグリ、

ホコリタケ科 1 種 ホコリタケ属

シロキクラゲ科 2 種 シロキクラゲ、ハナビラニカワタケ

キクラゲ科 1 種 アラゲキクラゲ

アカキクラゲ科 1 種 ニカワホウキタケ

チャワンタケ属

変形菌



キチチタケ 10/26 福島



クロラッパタケ 10/26 福島



ニセショウロ 10/26 福島